

## 活動報告

団体名	九州防災パートナーズ
活動名	福岡県久留米市における被災者の復旧活動を支援するための活動
活動期間	2020/07/09～2020/08/08
活動の成果	<p>1 久留米市災害ボランティアセンターの運営支援：ガイドラインに従った十分な予防に努め感染症を予防することができた。また熱中症対策やその他安全への配慮、活動状況の可視化などを行い、円滑で安全なセンター運営に寄与した。</p> <p>2 情報共有会議：久留米市、久留米社協、久留米大学、久留米工業大学、JC、弁護士会、県内 NPO 団体、久留米 NPO センターなどの参加により情報共有会議を実施し、床下浸水家屋の支援活動の調整を実施した。これにより災害ボランティアセンターは床上浸水対応、支援団体は床下浸水対応という明確な役割分担ができた。コロナ禍において県外支援団体の活動が制約される中、県内の支援団体により活動調整ができたことは大きな成果であった。</p> <p>3 住民向け床下対応講習会：床下浸水家屋件数が大変多いので、床下対応のできる団体の支援だけでは十分に対応できない状況であった。また床下浸水被害の家屋では正確な知識がないままに「何もしなくても大丈夫」という誤った判断のもとで放置され後々カビの発生などによる健康被害の発生の恐れのある家屋も存在するだろうと推測された。解決策として住民に正しい知識とスキルをつけてもらうために住民向け床下浸水対応講習会を実施した。この講習会において社会福祉協議会と弁護士会の相談ブースを合わせて設置し、住民のニーズ把握に努めた。結果各会場で3件ずつの相談が寄せられ迅速な支援活動に結び付けることができた。久留米市で3年間連続して浸水災害が発生し、筑後川下流域に位置する久留米市は今後も浸水被害の発生が予測される場所である。これまでの浸水被害においては、取りのこされていた床下浸水家屋の対応も今後は床下浸水被害における正確な知識、スキルを住民が身に着けることにより確実な支援が行き届くことになり久留米市全体において安心、安全な環境が整備されていくことになる。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>久留米市では人命を失うような被害は発生しなかったものの、1000棟を超える床下浸水被害となりました。3年連続で水害に遭い今後も地形的な条件により浸水被害の発生が予測されます。この助成により住民の皆さんに床下対応講習会を実施できたのは大きな成果でした。正確な知識、スキルを持つ住民が増え意識が変わることで支援の漏れは減少すると考えます。今回は2会場の実施でしたが、講習会を契機に市内全体に住民向けの講習会を広めることになりました。コロナ禍で県外からの支援団体参加が制限されている状況で、情報共有会議に参加した久留米市内の各団体から「今後は久留米市内で床下浸水対応ができる人材養成を実施しよう」という意見がまとまり、今後にむけ大きな契機となりました。</p>

(活動のようす)

